

# 令和6年度学校自己評価システムシート ( 県立春日部高等学校 定時制の課程 )

目指す学校像	基礎学力を身に付け、人権尊重の精神を養い、一人ひとりの生徒が生き生きと学び合う学校
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>個別最適化学習・・・授業の個別最適化を目指して「わかる授業」を実践する。</li> <li>キャリア教育・・・自立した社会人となるように、規範意識と自己管理能力を育成する。</li> <li>安心安全・・・生徒一人ひとりの基本的な生活習慣を身に付けさせ、安心安全な教育環境を確立する。</li> <li>情報発信・・・学校・家庭・地域社会への情報発信を通じて、魅力ある学校づくりを推進する。</li> </ol>
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	11名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 1 月 9 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	<p>【現状】落ち着いた学習環境の中で授業に取り組む生徒が多い一方、学習面で個別の支援が必要とされる生徒が散見される。</p> <p>【課題】生徒の学習状況を踏まえ、学力向上と定着に向けた授業実践が必要である。また増加している外国籍生徒への日本語支援も重要である。</p>	<p>○生徒の実態に応じたわかる授業を展開し、興味関心や意欲を喚起する。</p>	<p>○教員間での授業見学や研修等をふまえた授業改善。</p> <p>○「総合的な探究の時間」を活用し、自己理解から社会とのつながりへの探究を行う。</p> <p>○例年実施している授業アンケートの全科目実施。</p> <p>○授業におけるICT(クラス・教科でのGoogleclassroom)活用100%を目指す。</p>	<p>○授業への理解や意欲向上など、学習への取り組み状況が授業アンケート等で改善が図れたか。</p> <p>○Googleclassroomの運用状況</p>	<p>○生徒対象の授業評価アンケートでは、主要6教科の肯定的評価が昨年度平均89%から92%とさらに向上した。わかる授業づくりのさらなる向上が見られた。</p> <p>○Googleclassroomの運用は、概ね活用されたが、一部で活用されてない科目もあった。</p>	A
		<p>○外部指導者等との連携を密にして、多様な生徒の実態をふまえて支援していく。</p>	<p>○個別最適化を促進する指導(習熟度別、TTなど)の充実。</p> <p>○外部指導者(日本語支援員、学習サポーター)による個に応じた支援の充実。</p>	<p>○生徒の授業に対する取り組み姿勢の変容が、アンケート結果や成績不振科目の減少に反映されたか。</p>	<p>○授業アンケートでは習熟度別・TT・学習サポーター活用科目での授業理解度が昨年度89.3%と同数値で高水準を維持、欠点数は半減した。</p>	A
2	<p>【現状】これまで生徒の進路実現に向けて取り組んでいるが、より適切な進路決定に向けた取り組みやサポートが必要。</p> <p>【課題】適切な職業観・勤労観を育て、自己実現に向けたより良い進路選択ができるよう指導していく必要がある。特別な支援を必要とする生徒への支援の充実も図る。</p>	<p>○個々の生徒の状況に応じて、自己決定力を身に付けさせ、より良い進路決定に導くよう支援していく。</p>	<p>○進路講演会、ソーシャルスキルトレーニングの実施。</p> <p>○「総合的な探究の時間」で社会での在り方生き方を学ぶ。</p> <p>○スクールソーシャルワーカー、特別支援教育コーディネーターとの連携。</p> <p>○今年度より作成した「進路の手引き」を活用し、4年生の就職希望者の就職率80%以上を目指す。</p>	<p>○希望の進路実現が図れたか。</p> <p>○進路未決定者の削減を図れたか。</p>	<p>○現時点での就職内定率は約90%と昨年より向上、引き続き未決定者への指導中である。また全体での進路未決定者は30%近くおり、継続指導を行っている。</p> <p>○スクールソーシャルワーカーの拠点校として家庭生活・進路選択の両面で教職員との連携を図り、支援を行うことができた。</p>	B
		<p>○学校不適応や学業不振による転学、中途退学を減少させる。</p>	<p>○個々の生徒に関する情報共有を緊密に行う。</p> <p>○スクールソーシャルワーカー拠点校としての積極的活用と教職員との情報共有。</p> <p>○福祉機関との連携を図る。</p> <p>○中学校との情報共有・連携</p>	<p>○学業不振による転学等の進路変更、中途退学者が前年度より減少したか。</p>	<p>○今年度は現時点で転退学者数が昨年数値から6割減少し、大幅な中途退学者防止となった。</p> <p>○今年度は全職員で延べ35箇所の中学校・適応指導教室への訪問を実施した。</p>	A
3	<p>【現状】本校には、不登校経験者、高校中途退学者、健康上の要配慮者、外国籍生徒など、さまざまな生徒が在籍しており、個々の実態に応じた指導が必要である。</p> <p>【課題】多様な生徒たちが、基本的な生活習慣を身に付け、自律する力をつけて心身ともに安定した高校生活に送れるよう支援する必要がある。</p>	<p>○遅刻、欠席、早退を減らし、出席状況を改善し、登校する生活習慣の確立を図る。</p>	<p>○登下校時の声掛け指導による生徒把握。</p> <p>○校内巡回指導による見守り。</p> <p>○出席等状況の把握と家庭との連携。</p>	<p>○生徒の登校状況(欠席、遅刻、早退)が改善したか。</p>	<p>○現時点での30日以上欠席・遅刻者数は昨年とほぼ同数であった。引き続き改善に向け継続指導を行う。</p>	B
		<p>○「学び直し」の定時制高校として、関係機関との連携を密に今後も生徒の進路実現を図っていく。</p>	<p>○今年度より新たに2学期から延べ3回学校説明会を行う。</p> <p>○個別の学校見学を積極的に受け入れ例年の平均30名を上回るよう実施する。</p> <p>○週1回以上の学校ホームページ更新に努め、SNSでの情報発信も検討する。</p>	<p>○今年度は現時点で転退学者数が昨年数値から6割減少し、大幅な中途退学者防止となった。</p> <p>○今年度は全職員で延べ35箇所の中学校・適応指導教室への訪問を実施した。</p>	<p>○今年度は全職員で延べ35箇所の中学校・適応指導教室への訪問を実施した。</p>	A
4	<p>【現状】本校定時制の「学びなおしの場」としてのイメージ、特色が定着しつつある。</p> <p>【課題】本校の教育活動を外部に積極的にPRし、学びなおしを目指す生徒の進路決定先として選ばれる学校づくりを目指す。</p>	<p>○中学校、学習支援施設、児童相談所等の各機関との連携を充実させ、本校定時制の魅力発信していく。</p>	<p>○今年度より新たに2学期から延べ3回学校説明会を行う。</p> <p>○個別の学校見学を積極的に受け入れ例年の平均30名を上回るよう実施する。</p> <p>○週1回以上の学校ホームページ更新に努め、SNSでの情報発信も検討する。</p>	<p>○本校定時制の教育内容を理解したうえで、志願する生徒が増えたか。</p>	<p>○今年度、全職員で中学校等訪問を実施、学校説明会参加は第1回35組、第2回38組と例年の平均を上回っており、12月進路希望調査も昨年の0.36倍から0.46倍と増加、本校定時制の特色と魅力が数値に結び付いた。</p>	A
		<p>○生徒が安心して登校、学習できるためのあらゆる方策を模索し、積極的に取り組んでいく。</p>	<p>○今年度から学校ホームページやInstagramのSNSでの情報発信が格段に改善を図ることができた。引き続き適切な運用に努める。</p>	<p>○「学び直し」の定時制高校として、関係機関との連携を密に今後も生徒の進路実現を図っていく。</p>	<p>○今年度より新たに2学期から延べ3回学校説明会を行う。</p> <p>○個別の学校見学を積極的に受け入れ例年の平均30名を上回るよう実施する。</p> <p>○週1回以上の学校ホームページ更新に努め、SNSでの情報発信も検討する。</p>	<p>○今年度は現時点で転退学者数が昨年数値から6割減少し、大幅な中途退学者防止となった。</p> <p>○今年度は全職員で延べ35箇所の中学校・適応指導教室への訪問を実施した。</p>

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和7年1月31日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>わかる授業づくりの実践が高評価に結びついている。引き続き、授業改善をとおしてわかる授業づくりを行っていただきたい。ICTを活用してより効果的な学習効果が上げられるよう、学習保障の観点もふまえて引き続き活用を図っていただきたい。</p>	
<p>外部との連携は極めて重要。大学生による学習サポーターの活用はまさにWIN-WINの関係である。今後も引き続き積極的な活用をお願いしたい。</p>	
<p>進路未決定の内訳は現時点で活動中ということで十分理解できた。現段階で粘り強く継続指導を行っていただいております。十分評価できる。日本語支援を必要とする外国籍生徒が年々増加している。そういった中、県が行っている日本語のオンライン指導などの様々な取り組みも活用し今後もより丁寧な指導を行っていただきたい。</p>	
<p>転退学者の減少は高く評価できる。春日部高校ならではの施設や奨学金等の制度活用でさらに魅力ある学校づくりを推進していただきたい。</p>	
<p>生徒が安心安全に学べる環境整備について引き続き努めていただきたい。</p>	
<p>全日制同様、今年度からのSNS活用による積極的な情報発信は継続していただきたい。また地域に根ざした活動についても自治体や近隣住民が参加できるような避難訓練や各種イベントも検討してはどうか。</p>	